

# 東山梨地区中学校社会科部会 研究の経過と概要

## 1. 東山梨地区中学校社会科部会研究テーマ

『科学的社會認識を育てる授業研究』～身近な資料を用いた授業研究～

## 2. テーマ設定の理由

東山梨中学校社会科部会では『科学的社會認識を育てる授業研究』～身近な資料を用いた授業研究～をテーマに研究を進めてきた。このテーマのもと、授業研究の実施、臨地研修、各自の授業実践報告、情報交換等、これまでの研究を継承する形で進めてきた。また、「見通し」と「振り返り」を重視し、学びの繋がりを実感できる授業づくりも模索してきた。

科学的社會認識を獲得するために必要な方法を研究することにより、次のような生徒の育成につながるものと考え研究を進めてきた。

- ①学習課題に主体的に向き合える生徒
- ②追究すべき課題を明確にとらえることのできる生徒
- ③自ら、また他者と協力して考えを深め、客観的あるいは主観的な判断を下すことのできる生徒
- ④出した結論を様々な資料や他者の意見を参考にしながら検証することのできる生徒

また、身近な資料を積極的に活用することは、①から④の生徒の育成にもつながると考えられる。場合によっては、「その結果」を導き出す際の大きな手がかりとなるはずであり、それは科学的社會認識を育てるための一つの手段にもなるだろう。

## 3. 研究の方法

### ◎臨地研修の実施

地域資料の教材化を図るための臨地研修

### ◎授業案作成に関する各校実践報告と授業案検討

「中学2年地理的分野 日本の領域と領土問題」について、部会全員が一人一事例の略案の作成し、検討を行った。

### ◎授業研究の実施（8月30日実施）

題材「北方領土は日本とロシアどちらの領土なのだろうか」

北方領土が日本固有の領土であることを資料・地図から読み取り、北方領土に関わる問題に興味を抱き、課題に対して自分なりの意見を持つことができるよう授業を行った。

### ◎学校間の情報交換

### ◎社会科教材研究に関わる学習会

### ◎小学校研究授業参観による小中連携

#### 4. 報告書作成参加者・共同研究者

山本裕（山梨南中） 荻原佐知（山梨南中） 小島萌絵（山梨北中） 武井晴彦（笛川中）  
澤登正仁（塩山中） 酒井理恵子（塩山中） 深澤歩未（塩山中） 内田英太（塩山中）  
武藤英紀（松里中） 堀内祐樹（松里中） 宮下智英（勝沼中） 小河照幸（勝沼中）  
前島香織（大和中）

助言者：窪田新治（山梨南中校長） 内田智之（松里中校長）  
廣瀬学（塩山北中教頭）

#### 5. 研究経過

5月10日 組織づくり  
5月24日 部会の運営方法，本年度の研究テーマおよび研究計画づくり  
6月14日 授業案検討①（授業案作成に関する各校実践報告を含む）  
7月31日 午前：臨地研修（木喰の里微笑館，湯の奥金山博物館）  
午後：授業案検討②  
8月30日 授業研究 深澤 歩未 教諭（塩山中）  
9月20日 小中合同で中間報告会（秋季教研）小中授業報告，小中研究中間報告  
県教研レポーター決定，研究の経過と概要の検討 など

#### 7. 今後の研究予定

11月29日 臨地研修  
1月10日 学習会  
2月 7日 小学校研究授業参観  
2月14日 冬季教研  
小中授業報告・小中研究報告・研究のまとめ

## 第2学年 社会科学学習指導案

日時 平成29年8月30日5校時  
場所 塩山中学校  
対象学級 第2学年3組 35名  
指導者 深澤 歩未

### 1 単元名 第1章 日本の姿

### 2 単元について

この単元は学習指導要領『(2)日本のさまざまな地域』における大項目の「ア 日本の地域構成」について取り扱ったものである。

地球儀や地図を活用し、わが国の国土の位置、世界各地との時差、領域の特色と変化、地域区分などを取りあげ、日本の地域構成を大観させる。地球儀や地図を活用して、世界的な視野から国土の位置や領域の特色を理解したり、他国との時差を調べたり、都道府県に着目して様々な地域区分できることをとらえたりする学習を通して、国土の地域構成をおおまかに捉えさせることを狙いとしている。

1学年で世界の諸地域を学習し、これから日本の諸地域を学習する生徒たちにとって、いよいよ地理の授業の中心に日本が据えられていく単元でもある。日本は世界の中でどのような場所に位置し、世界の中でどのような立ち位置にあっているのか学習していくことを通して世界と日本の繋がりを学んでいく。その中でも領域や領土問題に関して平成26年に学習指導要領の解説の一部改正が示され、「我が国の領土に関する教育」の「一層の充実を図る」こととなり、平成28年度以降に使用される教科書にそのことが反映されている。難しい内容だからこそ丁寧に扱い、領土問題の正しい認識や理解を深めることで必要であると考え。

中でも北方領土問題について、日本固有の領土として位置や範囲を確認することや、現在ロシアに不当に占拠されており、返還を求めているなどの確に扱う必要がある。本時は特設的な授業として北方領土問題に着目しながら、領土問題に対して意見を深めていく。

ロシアは1946年に北方領土を一方的に自国領として編入し、当時四島全体に住んでいた約1万7千人の日本人を強制退去させた。それ以降今日に至るまでソ連・ロシアによる法的根拠のない占拠が続いており、この北方領土問題が解決しないため、日本とロシアの間にはいまだに平和条約が締結されていない。強制退去させられた人々は北海道など日本各地に移住し、平成28年度6400人余りの元島民の方が生存されている。しかし、平均年齢は82歳と、元島民も高齢化が進んでいる現状にある。先祖の墓参りにも行けず、思い出の詰まった土地はすでにロシアの人々の思いのつまった土地となっている。北方四島には現在ロシア人が生活しており、北方四島はその人たちにとっても「故郷」と呼ぶべき土地になっている。本時や本単元の学習を通して、元島民の葛藤や思いを次世代へと繋ぎ、意欲的に考え、多面的多角的角度から問題を考察し、自分の意見を持てるような公民の育成に努めたい。

### 3 研究とのかかわりについて

研究テーマである『『科学的社会認識を育てる授業研究』～身近な資料を用いた研究～』から、本部会では、「科学的とはしっかりとした法則に基づいた結果としての事実であるべきだ」との考えをもとに、

それは時代の特性を越えて人類社会の普遍性を示すものであるべきだとしている。その社会認識を獲得するために必要な方法を研究することにより、次のような生徒の育成につながるものと考えている。

- ①学習課題に主体的に向き合える生徒
- ②追究すべき課題を明確にとらえることのできる生徒
- ③自ら、また他社と協力して考えを深め、客観的な判断を下すことのできる生徒
- ④出した結論を様々な資料や他者の意見を参考にしながら検証することのできる生徒

このことこそが、最終的に公民的資質をもった人間形成につながると考える。そこで、生徒にとって身近な資料を活用することは、「その結果」を導き出す際の大きな手がかりとなるはずで、科学的社会認識を育てるための一つの手段ともなるといえる。このような考えから、本単元では、世界の中での日本の位置や領土問題について知識を深める中で、学習課題に主体的に向き合い、また他者と協力して考えを深め、客観的な判断を下すことができることを目指していきたい。

### 4 生徒について

対象生徒は2年生，2年3組である。

#### (1) 生活面について

全体的に明るく前向きで男女の仲も良いが、学級で決めた目標に向けてひたむきに頑張ることができる生徒と、何となく人の後をついていく生徒とに分かれている。目標に向かってみんな協力することや全力で取り組むことに価値を見いだせるよう、リーダーとなる生徒を中心に価値観を共有できるよう話し合う機会を多く取り入れてきた。また、塩中生の生活規範であるあいさつ返事、時間を守ることを日々徹底している。特に時間を守ることに對して、自然教室や学園祭に向けてのとりくみを通して、見通しを持って建設的に行動することができるようになってきたところである。

#### (2) 学習面について

社会科の学習に対して、歴史的分野に興味を抱いている生徒が多い。地理的分野も写真などを授業に取り入れることで、意欲的に学習する生徒が増えたが、学習の対象が広く、重要語句や要点を絞りきれずに学習がしにくいと感じている生徒もいる。

また、新聞記事や社会で起こっている出来事には興味を持っているが、自分からは調べようとならない生徒が多い。領土問題についても、北方領土問題という問題があるということは知っているが、具体的に何が問題なのか、さらに竹島や尖閣諸島については場所も、どこの国との間で問題になっているのか知らないという生徒が多い。



## 7 単元の指導計画

### 【単元をまとめてわかること】

わが国の国土の位置，世界各地との時差，領域の特色と変化，日本が抱える領土問題，日本の地域区分



### 【単元を貫く問い(単元の学習問題)】

私たちがくらす日本の位置的特徴，時差，領土問題，地域区分について学び，デザインシートにまとめよう。

評価観点 (1)関心・意欲・態度 (2)思考・判断・表現 (3)技能 (4)知識・理解

| 時間  | 学習活動   | 重視する評価観点 |     |     |     |
|-----|--|----------|-----|-----|-----|
|     |  | (1)      | (2) | (3) | (4) |
| 第一時 | <p>学習課題 世界の他地域から見た時，日本はどのように表されるのだろうか。</p> <p>主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球儀や世界地図を活用しながら，さまざまな方法で日本の位置を示す。</li> <li>・日本と同じ緯度や経度にある国を確認する。</li> </ul>               |          | ○   | ○   |     |
| 第二時 | <p>学習課題 世界各地の時差は，どのようなしくみで生じるのだろうか。</p> <p>主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時差のしくみを理解する。</li> <li>・日本と主な国々(都市)の時差を計算する。</li> </ul>                                       | ○        |     | ○   |     |
| 第三時 | <p>学習課題 海に囲まれた日本にはどのような特色があり，どのような問題を抱えているのだろうか。</p> <p>主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・領域のしくみや日本の領域の特色を理解する。</li> <li>・沖ノ鳥島の護岸工事に着目しながら排他的経済水域について考える。</li> </ul>      | ○        | ○   |     |     |
| 本時  | <p>学習課題 北方領土は日本とロシアどちらの領土なのだろうか。</p> <p>主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北方領土問題に対して意欲的に意見を持つことができる。</li> <li>・北方領土が日本固有の領土である根拠を地図と資料から読み取る。</li> </ul>                  | ○        |     | ○   |     |
| 第五時 | <p>学習課題 北方領土問題以外にもどのような領土問題があるのだろうか。</p> <p>主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の竹島の様子や政府がとっている対応について理解する。</li> <li>・領有権問題のない尖閣諸島に，なぜ中国が領有権を主張してきたか，その理由を考える。</li> </ul>  |          | ○   |     | ○   |
| 第六時 | <p>学習課題 都道府県や県庁所在地は，どのような経緯で名前がつけられたのだろうか。</p> <p>主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県の位置と県庁所在地を確認する。</li> <li>・日本列島の略地図を書く。</li> </ul>                                 |          |     | ○   | ○   |
| 第七時 | <p>学習課題 日本には，どのような地域の分け方があるのだろうか。</p> <p>主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本列島を7つの地域に分けた7地方区分がよく用いられることを確認する。</li> <li>・各地の天気予報や餅の形などの例から実際に用いられている地域区分を確認する。</li> </ul> | ○        |     | ○   |     |

8 本時

(1) 日時 平成29年8月30日(水) 5校時

(2) 場所 塩山中学校2年3組

(3) 本時の目標

- ① 北方領土に関わる問題に興味を抱き、その課題に対して自分なりの意見を持つことができる。 【関心・意欲・態度】
- ② 北方領土が日本固有の領土であることを資料や地図から読み取ることができる。 【技能】

(4) 本時の展開

|                               | 学習活動  | 教師の支援・活動   | 学習評価                       |
|-------------------------------|---|--|----------------------------|
| 導入<br>5分                      | 1 本時の流れの確認  | ○本時の流れを確認し合意形成することで、生徒に1時間の見通しを持たせる。   | □十分満足できる<br>■努力を要する生徒への手立て |
|                               | 2 ロシアと日本の地図を比較<br>2つの地図を比べて気がついたことは何だろう。<br>・わからない<br>・北方領土の色が違う<br>・国境が違うところに引いてある | ○電子黒板を活用する。<br>○ロシアと日本それぞれで製作された日本の地図を提示し、国境線や北方領土の扱いの違いに気づかせる。  |                            |
| めあて 北方領土は日本とロシアどちらの領土なのか考えよう。 |   |  |                            |
|                               | 3 本時の目的を知る  | ○本時では北方領土を取り巻く日本とロシアの問題について、自分の考えを持つことが目標であると伝える。<br>○北方領土の学習のため、北海道を訪問した際の教師の写真を提示する。<br>○先日のアンケートの結果を発表し、北方領土についてあまり興味を持たない人が多いという現状を伝え、なぜ本時で北方領土を扱うことになったのか教師の思いを伝える。 |                            |

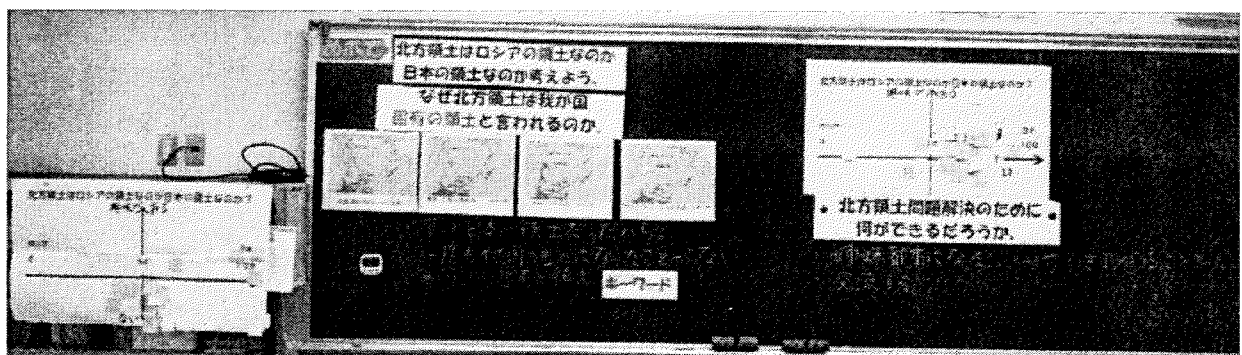
|                                       |   |  |  |
|---------------------------------------|---|--|--|
| <p>展<br/>開<br/>前<br/>半</p>            | <p>4 日本が領有権を主張する理由を歴史的背景に着目して学習する。</p>  | <p>○ワークシートの4つ地図を見比べ、樺太・千島列島の領有権がロシアと日本の間でどのように変化してきたかを気づかせる。</p>   | <p>□資料を読み取り、日本の領土について気付いたことを記入することができる。</p>  |
| <p>15分</p>                            | <p>発問 なぜ北方領土は我が国「固有の領土」と言われるのだろうか。</p>  |  |  |
| <p>作業</p>                             | <p>江戸時代以降、日本の国境線がどのように変わっていったのか、ワークシートに色塗りをし、わかったことを記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争で勝ったから</li> <li>・一度もロシアの領土になっていないから</li> <li>・北方領土だけは日本がずっと領有している。</li> </ul> <p>5 第二次世界大戦後ロシアがどのようにして北方領土を占拠していったのかを知る。</p>  | <p>○机間巡視をする。</p> <p>○北方領土が「我が国固有の領土」とされる根拠は、一度も他国に支配された歴史がないからであるということを説明する。</p> <p style="text-align: center;">キーワード：固有の領土</p> <p>○電子黒板を用いてロシアが進んだルート、なぜ北方領土に侵攻したのかを説明する。</p> | <p>■何色がどの国の領土なのか地図の見方を確認し、4枚通して共通していることを引き出していく。</p>   |
| <p>展<br/>開<br/>後<br/>半</p> <p>25分</p> | <p>6 現在北方領土で生活するロシア人、北方領土で生活していた元島民の主張を知る。</p> <p>7 北方領土はロシアの領土なのか日本の領土なのか、自分の考えをワークシートに記入する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">100の生徒の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本固有の領土だから。</li> <li>・奪われたものは取り返したいから。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">51～99の生徒の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本固有の領土だと思うが、そこに住むロシア人の故郷に対する思いを尊重すると、日本の領土と言い切ることができない。</li> </ul> | <p>○北方領土で暮らすロシア人の主張、元島民の主張を資料を配布する。</p> <p>○0～100の数字で自分がどの立場の考えを持っているのか表現させる。ロシアの領土だと思う生徒は0、日本の領土だと思う生徒は100に近い数字を記入する。</p> <p>○自分の考えをワークシートに記入した後、全体で意見を共有する。</p>              | <p>□北方領土はどちらの領土なのか、今後どうあるべきなのか、自分の意見を持つことができる。</p> <p>■元島民やロシア人の話の印象的なところに線を引いたりして、考えを整理させていく。</p> |



|                   |  |  |  |
|-------------------|--|--|--|
|                   | <p>1～49の生徒の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もとは日本の領土だったが、終戦日が違うのでロシアの占拠は有効だから。</li> </ul> <p>0の生徒の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争で獲得した領土だから。</li> </ul> <p>8 自分と北方領土問題を結び付ける。</p> <p>北方領土問題に対して私たちにできることは何かないだろうか。政府、私たち(民間人)、企業などの視点で考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この問題について興味を持つ</li> <li>・勉強したことを周りの人に伝える</li> <li>・ロシアと協同で事業をする。</li> <li>・両方の国の人が生活できるようにする。</li> <li>・北方四島を二つに分け、日本とロシアで半分にする。</li> </ul> | <p>○自分たち、政府、外国などの視点から北方領土問題の解決に向けてどのようなことができるか個人で考え、その後3、4人グループで意見を交換させる。</p> <p>○机間巡視をする。</p> |  |
| <p>まとめ<br/>5分</p> | <p>9 元島民が北方領土に対して抱いている思いを知る。</p>   | <p>○元島民の話や根室市を訪問して教師が感じたことを生徒に伝える。</p>   |  |

(5) 評価規準

|              | 十分満足できる【A】   | 努力を要する【C】への手立て                                      |
|--------------|--|---|
| <p>興味・関心</p> | <p>北方領土問題について、北方領土は日本の領土なのかロシアの領土なのか、今後どうあるべきなのか、自分の意見を持つことができる。</p> | <p>元島民やロシア人の話のどこが印象的などところに線を引いたりして、考えを整理させていく。</p>  |
| <p>技能</p>    | <p>資料を読み取り、条約ごとの日本の領土について気付いたことを記入することができる。</p>                      | <p>何色がどの国の領土なのか地図の見方を確認し、4枚通して共通していることを引き出していく。</p> |



資料

**択捉島元島民 女性 78歳**  
 土地や財産を奪われ、島を追われた元島民は、引揚げ後も大変惨めな生活をしなければなりません。長い年月が流れ、平成2年に戦後初めて択捉島の墓参りが許され、参加しました。学校の門だけが村があった証のように残り、両親のお墓はどこにあるのかも分からず、あまりの衝撃に涙も出ませんでした。島の美しい風景だけが癒してくれました。  
 私たち日本人は、ロシアに四つの島が奪われ不法に占領されている事を決して忘れてはなりません。私も、体力の続く限り、北方領土返還要求運動を頑張っていきたいと思っています。一方で、私たちが故郷を奪われたように、ロシア人の故郷を奪い取るということはしたくないと思っています。北方領土に住むロシア人の中で「日本人の祖先の墓を壊し、侵襲したロシア人の行いは恥ずかしいことです」と涙ながらに謝罪してくれ人もいます。私たちが自由に行き来できる、そんな将来があることを願っています。

**択捉島に住むロシア人の意見1 女性 48歳**  
 私は1947年に択捉島で生まれ、以来ずっと択捉島で生活してきました。私は択捉島はロシアのものだと思っています。日本人と一緒に住むことに関しては不安を持っていません。日本人とも良い関係で生活していけると思っていますが、択捉島が日本のものになってしまうと自分の故郷がなくなってしまうので、択捉島がロシアのものなら日本人にどんどん移住してきてほしいと考えています。私にとって、かつて日本人が択捉島から追い出されたように、自分も故郷である択捉島から追い出されることは耐え難いです。

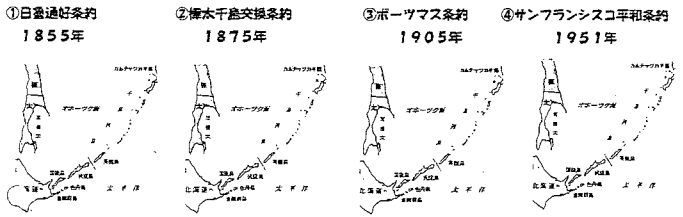
**択捉島に住むロシア人の意見2 男性 33歳**  
 私は3年前までタジキスタンで生活していましたが、内戦が起きたとき択捉島に住む親戚が呼んでくれたため、択捉島に移り住みました。  
 生活環境については、タジキスタンに住んでいた頃と比較するとはるかに択捉島の方が生活しやすいので満足しています。しかし北方領土問題について、北方四島は日本のものだと思います。日本人が島を訪れて双方がよい交流をしているときの子どもの活き活きとした様子を見ると、大人がうらまわっているのとそれが子どもにも伝わるし、共同居住が望ましいと思っています。

**色丹島に住むロシア人の意見 男性 28歳**  
 私は2年前に色丹島に引っ越しました。開発が遅れていた北方領土ですが、今色丹島では急速に開発が進み、新しい建物も増え、充実した医療サービスなどが受けられるようになりました。さらにロシアでは職業によっては北方領土で数年生活するとその後の給料が上昇したり、経済発展に貢献すると土地をもらえるしくみが設定されました。そのため、今後のために北方領土で数年生活するという人が増えています。  
 また、日本の第二次世界大戦の終戦日は8月15日かもしれませんが、ロシアやアメリカの終戦日は9月2日です。そのためロシア軍の侵襲は有効で、不法占拠ではなく戦争中に獲得した領土とすることができます。だから、北方領土はロシアの領土であると考えています。

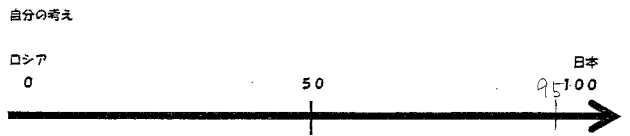
北方領土は日本とロシア、どちらの領土なのか考えよう

氏名( )

日本とロシアの領土の変遷 赤：日本 緑：ロシア 白：国際法上どこの国の領土でもない



北方領土はなぜ我が国固有の領土と言われるのだろうか？  
 昔から交換されることになり、日本の領土ではないから、一度も他国の領土にならなかったから、→固有の領土



理由  
 (上のグラフのように、条約などを結んでいないから、また「日本の領土だ」と思う。)

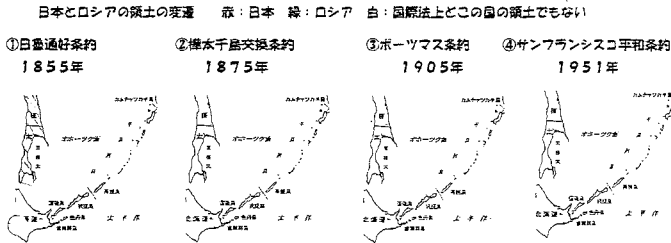
両国が「自国の領土だ」と言っているだけでは角が立たないから、たこまん話し合いをして、北方領土に住むロシア人と日本人が、よく仲良くしたりすれば平和的に解決できると思う

ロシア人の話を聞いて、絶対に日本のものではないけれど、上のグラフのように、条約を結んでいないから、70くらいにはなりました。また、3年程の話を聞いて、色丹島北方領土について思っていることは、た。

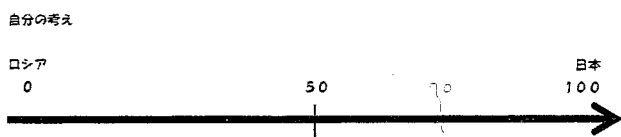
北方領土は日本とロシア、どちらの領土なのか考えよう

氏名( )

日本とロシアの領土の変遷 赤：日本 緑：ロシア 白：国際法上どこの国の領土でもない



北方領土はなぜ我が国固有の領土と言われるのだろうか？  
 北方領土は、ロシアにもとられていないのだから、もともと固定してある領土なので、固有の領土というのではないだろうか。  
 一度も他国のものにならなかったから、→固有の領土



理由  
 (領土として日本に認められ日本のものではないと思う。しかしそこが故郷となったロシア人も、それを考えると、今まで暮らしてきたロシア人の意見も分かる。)

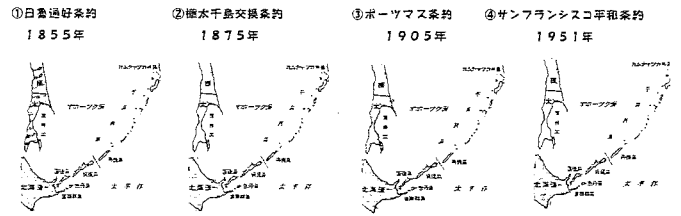
北方領土と日本の元島民が「交流していいのが、すごく良い取引相手だ」と思っている。実際に私たちが、直接関係する人たちが、より良い解決策を出せることができるから、でも私たちが、真実にもっとたいとりにするために、他の島とも交流をしようと思う。

北方領土の言葉とロシアの話を聞くと、私たちが、聖大親王になっていいのと同じで、たいてい、解決策がある。上のグラフは、「日本固有の領土」というワードを考えると、やはり日本のものだと思う。

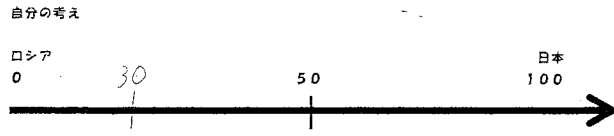
北方領土は日本とロシア、どちらの領土なのか考えよう

氏名( )

日本とロシアの領土の変遷 赤：日本 緑：ロシア 白：国際法上どこの国の領土でもない



北方領土はなぜ我が国固有の領土と言われるのだろうか？  
 ここまでが「自分たちの領土と承継した」  
 答え  
 一度も他国のものにならなかったから、→固有の領土



理由  
 (ロシアが9月2日、日本が8月15日、終戦日だから、戦争中にロシアの土地に奪った。)

授業のまとめ  
 北方領土で、日本とロシアで住んでいる人たちが、交流とかをどんどん深めて生活していけばいいと思う。

自分は、最初ロシアの終戦日の方が、日本よりも遅くて、それでロシアの領土だと思っていたけれど、やはり日本はまた「一度も他国のものにならなかったから、日本よりも」。

## 9 授業を終えて

### (1) 授業者の反省

本時は、北方領土に関わる問題に興味を抱き、その課題に対して自分なりの意見を持つことができること、北方領土が日本固有の領土であることを資料や地図から読み取ることができることをねらいとしていた。

ねらいに迫るための手段として、北方領土の元島民や北方領土に住むロシア人の意見を提示することで、そこで生活する人々の生活や思いをイメージできるように図った。また、地図を漠然とながめ資料から情報を読み取るのではなく、一人ひとりが白地図に色を塗る作業を通して、自分の意見を持てるように工夫した。

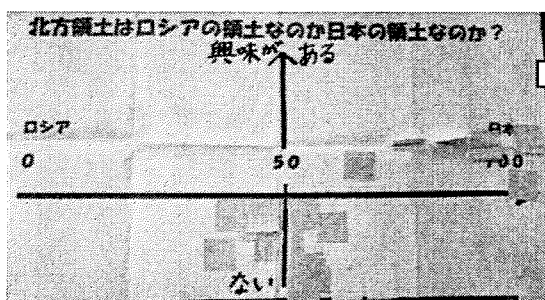
成果として、白地図に色塗りをすることで地図を読み取ることが苦手な生徒も、時間内に自分の意見を持ち、ワークシートに考えを記入することができた。本時のキーワードである「固有の領土」とは一度も他国のものになったことがない領土である、という意味をおさえることができた。

また、下の写真の通り、授業前は北方領土問題に興味を抱いていなかった生徒が多かったが、授業を通してこの問題に興味を持たせることはできた。特に、元島民やロシア人の意見が入っていたことにより、ただの教科書の中に挙げられている問題としてではなく、誰かの生活に関わった重大な問題である、という意識に変革した生徒が多かった。

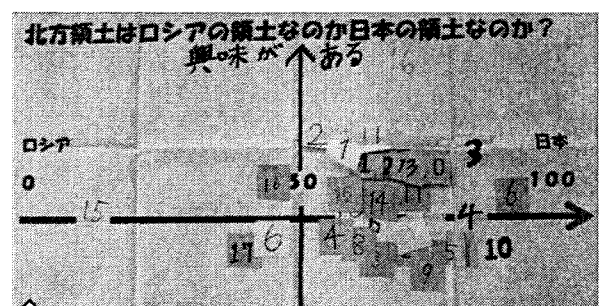
一方で、本時の授業は「地理」の授業として適切だったのか、道徳的な社会科の授業になりすぎていないか、という疑問を常に抱きながらの授業づくりであった。地理の授業としては、北方領土の地図上の位置を確認し、なぜ日本固有の領土と言われているのかを確認することが目標であると考えられる。しかし、本時では元島民とロシア人の主張を資料として取り上げることで生徒の感情を揺さぶり、北方領土は日本の領土なのかロシアの領土なのか、自分なりの意見を持たせた。さらに、解決策まで考えさせたため「公民」の授業で扱う範囲にまで及んでいる。

また、本時ではアイヌ民族との関係には触れていない。今後地理、歴史、公民それぞれの授業で北方領土や領土問題について扱う際は、現在領有を主張している国や民族だけではなく、歴史的背景により注目しながら多面的多角的に問題をとらえられるように、資料などを提示していきたい。

【授業前の生徒の捉え方】



【授業中の生徒の捉え方】



【学園祭3学年社会科発表の後】

※詳しくは12ページ

「10 社会科の授業以外のとりくみ」に記載

## (2) 研究会より

### ○シンキングツールの活用について

**成果** 本時では、北方領土問題に対する興味を縦軸、ロシアか日本の領土なのかという自分の意見を横軸で表したシンキングツールを授業前と授業中に活用した。授業前に比べて、あきらかに意見が変化した生徒が多い。授業前はよくわからず真ん中あたりにあつまっていた付箋が横に大きく動いている。

**課題** さらにこのシンキングツールを活かすために、本時の終わりに改めて、自分の考えほどの位置にきたのかを提示してもよかった。時間にゆとりがあり、もっとたくさんの時間を互いの意見を聞くことに当てられると生徒たちにとってはより有意義な時間になった。

### ○資料について

**成果** 白地図を塗るという作業について、自分で作業することで地図の読み取りがしやすくなり、その後の発問に対して自分の意見を持つことができる生徒が多くなった。また、現地の人の意見を知ることによって北方領土に関わる問題に意欲的に取り組もうという気持ちになった。

**課題** 感情に訴えるような現地の人の資料になってしまった部分もある。それよりも排他的経済水域に関するものなど北方領土があることでどのような利点があるかなど、客観的な資料を用意しても良かった。

### ○「地理」の授業として適切であったか

**成果** 授業者が北方領土問題教育者現地研修会に参加して感じてきたことを、生徒に伝え共に考えるという意味で本時は良かった。特に、領土問題という扱いにくい問題を正面からとらえ、要点をおさえながら学習することができたことは成果である。

**課題** 地理的分野の授業として考えたときに本時の授業のめあては適切だったのか。問題解決のための発問を投げかけた点、データなどの客観的な資料ではなくインタビューに基づく感情に訴える資料を用いた点が公民の授業や道徳の授業のようになってしまった。

## 10 社会科の授業以外のとりくみ

本校では、学園祭の文化の部で各教科からの発表がある。今年度3年生社会科は、授業者と共に北方領土問題青少年現地研修会に参加した4名の生徒による研修の成果を発表した。「北方領土問題について興味を持ってほしい」「元島民の思いを伝えたい」という生徒の思いのもと、①北方領土に関するクイズ②日本固有の領土と言われる理由③元島民から聞いたロシアの侵略・占領の様子という内容で発表した。この発表の後授業対象の2年3組で授業と同じ発問をしたところ、前ページの写真の結果となった。

「興味がある」と答えた生徒が多くなった要因として、発表では元島民の話が大きく取り上げ、授業よりも感情に訴える内容になったからだと考えられる。次に日本側に意見が集中したり、授業中にロシアの領土であると主張した生徒(15番)が意見を日本よりにしたのは、「日本固有の領土」である理由を再確認したからだと考えられる。

このことから、伝える側が用いる資料や提示方法によって興味はもちろん、生徒の考えまで影響を与えるのだと改めて感じた。今後の社会科の授業づくりにおいて、多面的多角的に思考することを補助するような客観的事実に基づく資料を用意したいと思った。